第２号様式（公開）

平成 24 年 5 月 27 日

まちづくり活動助成「地域“魅力”アップ部門・“はじめの一歩”部門」

まちづくり活動提案書

1　助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提案名	名古屋城ヒメボタルの森ほっとプロジェクト		
団体名	名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち		
提案の活動を行う地域	名古屋市中区三の丸 名古屋城外堀（新御園橋～大津橋：外堀通沿いの空堀）		
提案の内容	（提案の目的）名古屋城外堀に生息するヒメボタルを絆として人と人、人と自然がつながり、温かい輪が広がること。 （提案設定の経緯）外堀のヒメボタルは堀に名鉄が走っていた 37 年前、職員の竹内氏が発見しその後保護活動をされてきた。氏亡き後、家族や知人・氏と交流のあった小学校教諭と教え子たち等で受け継いでいる。現在は市の活動承認団体として活動している。毎年 5-6 月には多くの見学者が訪れ外堀は温かい場となっている。ところが、昨年度、樹林帯の一部が伐採された。本年度の市の担当者とは改めて外堀の保全方法を考えている。 （提案の内容）目的達成のためには、ヒメボタルの棲める外堀の自然を次世代に残せることが重要となる。市民への情報発信と同時に、市民の考えや思いを受信し、それを行政や市民に伝え、市民全体で外堀の森を大切にしていけるようにしたいと考えた。 (1)5・6 月の蛍観察期間における発信受信 5・6 月の蛍発生時（23 時～3 時頃）毎日現地で見学者にチラシを渡して案内したり、蛍の状況を調べて HP で知らせたりする。「ヒメボタルは陸生で、外堀の自然環境が適している。雌が飛べないので現在の生息域が大切」等の情報を人から人へ発信する。また、現地に箱と用紙を置き、市民の思いを書いて入れてもらう。 (2)観察会（護国神社境内）での発受信 蛍観察会では、スライドや歌等で情報や思いを発信する。参加者の思いは絵やコメントにして用紙に書いてもらい、一部を掲示する。 (3)ブース出展や体験会での発受信 蛍の生息地や生態をパネル等で紹介する。また、押し花栞作りや幼虫成虫との触れ合い等を通して、人とのつながりを生む。参加者の思いを栞や用紙等で残してもらう。 (4)作品募集と手作り絵本の増刷 市民（特に子ども）の思いを絵や歌等の作品にしてもらい、観察会やブース、協力店や HP 等で展示。心温まる手作り絵本を増刷して配布する。 (5)案内板作成 現在の案内板は本町橋より東にある。実際には西に多く生息しているので、そちらに案内板を蛍の発生期間中、土木事務所と一緒に設置することになった。本会で図案から案内板作成補助を行う。これにより、外堀の森はヒメボタルの生息地だとわかりやすくなり、市民全体で外堀の自然の大切さを考えることができる		
活動期間	平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月	助成金交付申請額	30　万円

9

2　提案内容について

「1　提案の内容」について、以下の４つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感が得られる活動か

・ヒメボタルは日本固有種で「都会の真ん中の歴史ある城に、自然発生している」のは世界で名古屋城だけと言われている。また、本来「森の蛍」と言われ山奥にしか生息しないと思われていたヒメボタルが初めて都会で発見されたことから、外堀は「ヒメボタル発祥の地」とも言われる。COP10 が開催された名古屋にこのような蛍が棲める自然豊かな森があることは、名古屋市民の誇りとも言える。

・この外堀は護国神社と隣接しており神社にも蛍が生息している。神社は蛍保護に大変協力的で、観察会は境内で実施させていただけており、会には 400 人もの人たちが集まってくる。地域の住民の消防団の方たちが観察会の警備を行ってくださる。蛍発生時期には毎晩多くの人たちが見学に訪れる。

・会設立年には「都市センター」さんに助成をいただき順調に活動を開始できた。その後は調査が多くなったためモリコロ基金の助成で調査等を実施した。ここで多くのデータを残したり、多くの人に発信することができた。

審査基準② 独創性	・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか

本会は、大人に加え、かつて保護活動をしていた竹内氏と交流のあった小学校教諭とその教え子たち等が受け継いでいることもあり、構成メンバーの年齢層がとても厚い。提案の内容は、世代や立場を超えた者たちがそれぞれにできることを出し合って考えられたものである。また、今までは発信しかしていなかったものを「蛍の見学にみえた方たち及び展示会や調査にみえた方たちの情報や思いを受信して形に残し、それをまた発信する」という形にした。これは、外堀を中心として名古屋市全体、そしてそこから全国へも温かい輪を広げようというオリジナルな取り組みである。

審査基準③ 実現性	・提案内容が具体的になっているか ・事業予算は妥当か

時期	活動内容
平成２４年４月	城内幼虫調査　市との定例打ち合わせ
５月	毎晩の深夜観察と案内・成虫調査・幼虫蛹化調査 観察会・生物多様性センター展示
６月	深夜観察・観察会・体験会・外堀に期間中案内板設置（本町橋より西）
７月	岩手県姫蛍研究会（被災地支援）
８月	ヒメボタルサミット in 愛知情報交換会（科学館）
９月	環境デーなごや（久屋広場）・ゆうわフェスタ（北区）
１０月	なごやグリーンフェスタ・外堀お宝探し（陸貝を中心とした自然調査）
１１月	城内と外堀の幼虫調査・清掃
１２月	城内と外堀の幼虫調査　市との定例打ち合わせ
平成２５年１月	絵本増刷
２月	絵本増刷
３月	清掃
	[事業予算は本年の予定をしっかり立てた上で立てている。案内板については、北土木事務所・中土木事務所・緑地施設課と相談をしながら本会で作成することになっている。]

下線の予定がプロジェクト対象

9

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書(ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。)

活動項目	内訳		金額(円)
(1)観察時発受信	印刷製本費	チラシ印刷代	60,000
	消耗品費	用紙・インク・事務用品	10,000
	交通費	スタッフ打ち合わせ交通費	15,000
	通信費	資料送料	5,000
(2)観察会2回	印刷製本費	写真代・資料印刷代	30,000
	消耗品費	用紙・インク・事務用品	10,000
	機材借用費	音響・照明セット賃借代	20,000
	保険料	観察会保険料	5,000
(3)展示・体験会	印刷製本費	パネル代・資料代	50,000
	消耗品費	栞作成代・展示容器代	30,000
	講師謝礼金	栞講師謝金(2名×2)	40,000
(4)作品・絵本	交通費	スタッフ打ち合わせ等交通費	10,000
	消耗品費	用紙・事務用品	20,000
	通信費	作品等送料	10,000
(5)案内板作成	印刷製本費	案内板パネル製作・印刷代	50,000
	消耗品費	材料費	30,000
	交通費	打ち合わせ等交通費	5,000
計	都市センター助成金 300,000円 自己資金 100,000円(会費)		400,000

審査基準④ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか

本会の構成員の年齢層が幅広いことから、今後も次世代にどんどんつなげていける。また観察者にはリピーターが多く、本会の支援者が自然に増えて輪が広がっている。名古屋城内や正門前の堀にもヒメボタルの生息が確認された。行政やもっと多くの市民に外堀のヒメボタルを知ってもらうことにより、名古屋城全体が都会の残された歴史のある素敵な自然環境であり、それを行政市民みんなで守っていけるようになっていくと考える。

審査基準⑤ 活動実績と主体性	・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか (団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。) ・具体的にどんな熱意を注いでいるか

(団体の概要)

1975年に外堀ヒメボタルを発見し、その後保護活動をしてきた竹内氏亡き後、家族・知人・氏と交流のあった小学校教諭とその教え子たち等で見守ってきている。

(活動紹介)

①情報発信:ステージやブース(COP10・環境デーなごや等)・国際ヒメボタルサミットでの発表・他県での講演や発表・冊子やしおり、絵本の作成・HPの充実等

②調査:成虫・幼虫・陸貝・植物調査→報告書の作成、城内ヒメボタル調査

⇒マスコミの取材が増え、以前よりは行政市民に知ってもらえるようになった。名古屋の後世に残したい場所として、市長より「ありがたやあ魅力賞」を受賞

(熱意)蛍発生時期は毎晩23時～3時に観察し、HPで毎日蛍の数等を発信。観察時に、蛍の生息できる環境を考えてデータもとっている。蛍を見に来る人たちの案内も行っている。1年を通して情報発信や調査を実施している。ヒメボタルは解明されていないことが多いために、全国のヒメボタル関係者の、大都会名古屋のヒメボタルへの関心度が高い。そのために他県への視察を実施したり、他県からの視察も多く、全国の人と共に調査を実施している。一人ひとりができることを存分に力を発揮して幅広く活動中である。